

令和4年度

事務事業点検評価結果報告書
(令和4年度実施事業)

令和5年5月

中津川市教育委員会

はじめに

中津川市は、平成27年4月にリニア時代を創る市民像を「学び、活かす市民」として、総合的な教育の理念や方向性を示す「中津川市教育大綱」を策定しました。

教育委員会では「教育大綱」の実現に向けた施策を計画的に実施・推進するための指針として、同年6月に3期12年を計画期間とする「中津川市教育振興基本計画（よりよいひとりだち中津川ビジョン）」を策定しました。

令和5年4月に本計画の3期目となる「後期計画」を策定し、子供たちの乳幼児期から高等学校を卒業するまでの「育ち」に関わる教育施策や大人自らが参加でき学べる生涯学習・文化スポーツ事業などの着実な推進に取り組んでいます。

本書では、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和4年度に教育委員会が実施した主要な事業について、新型コロナウイルス感染症による影響と各種対応を踏まえたうえで、学識経験を有する方などで構成する評価委員のご意見をいただきながら点検評価を行い、今後の事業方針等を検討した結果を報告します。

また、この点検評価は、前述した教育振興基本計画の進捗管理を兼ねており、評価結果を次年度以降の施策の推進や改善に反映することで、より着実な計画の実現に役立てていきたいと考えています。

今後とも市議会をはじめ、市民の皆様のご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年5月
中津川市教育委員会

1 事務事業点検評価について

(1) 教育委員会点検評価制度の導入経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成19年6月に公布され、新たに法第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

(2) 教育に関する事務の管理、執行状況の点検及び評価の実施方針

中津川市教育委員会では、法の一部改正を受けて、次のような方針にもとづき、点検及び評価を実施することとしました。

点検評価の実施方法

① 評価対象事業

中津川市教育委員会が令和4年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業の中から主要なものを抽出し重点的に評価を実施します。

《令和4年度評価対象事業》

シートNo.	事業名	課名
1	岐阜サマー・サイエンス・スクール	学校教育課
2	幼児教育・保育施設適正配置計画策定事業	幼児教育課
3	市民大学講座開催事業	中央公民館
4	読書推進事業：絆スタート事業	図書館

② 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業の自己評価を実施します。

③ 委員会評価

中津川市教育評価委員会において評価対象事業について意見をいただきます。

④ 最終評価

教育委員会が、一次評価及び委員会評価の結果をふまえ最終評価を実施し報告書を取りまとめ、議会へ提出するとともに公表を行います。

⑤評価結果の活用

教育委員会は、点検及び評価の結果を、次年度以降の教育目標や基本方針等の策定、その他事務事業の改善等に活用します。

教育評価委員会

①教育評価委員会の設置

中津川市教育委員会点検評価実施要領の規定に基づき、5名による教育評価委員会を設置します。教育評価委員の任期は1年です。

②教育評価委員会の構成

役職名	氏名	公職等
委員	須栗大	第2期中津川市中心市街地活性化基本計画事業委員（大学教授）
委員	朝日美智子	地域ミニコミ誌編集長
委員	大瀧國嘉	中津川市校長会代表
委員	早川隼人	中津川市PTA連合会副会長
委員	岩久知世	中津川市保育園保護者会連合会長

点検評価の評定基準

①一次評価

評価対象事業について成果、反省点、課題、問題点、改善点等の観点から評価を行います。

②委員会評価

評価委員会を開催し、①の結果をふまえ、対象事業について審議し意見をいただき、それをもって委員会評価とします。

③最終評価

①と②の結果をふまえ、下記により方向性を示したうえで評価を行います。

方向性の判断	
継続	廃止

2 令和4年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

令和4年4月～令和4年12月 ※教育委員会会議の議案番号は、暦年で番号を付与しています。

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第5回	議第10号	令和4年4月22日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
第6回	議題11号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議題12号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会委員の委嘱等について
	議題13号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市B&G海洋センター運営協議会委員の委嘱等について
	議題14号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市美術品等評価委員会委員の委嘱について
	議題15号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議題16号	令和4年5月27日 同日 原案承認	中津川市保育士等修学支援金貸付条例施行規則の一部改正について
	議題17号	令和4年5月27日 同日 原案承認	令和3年度中津川市教育委員会の事務事業点検結果報告書について
	議題18号	令和4年5月27日 同日 原案承認	令和4年度中津川市選奨生の決定について
	議題19号	令和4年5月27日 同日 原案承認	令和4年度岐阜県教科用図書東濃採択地区協議会の設置等について
第7回	報第3号	令和4年6月27日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議題20号	令和4年6月27日 同日 原案承認	令和5年度使用中津川市立阿木高等学校用教科用図書の採択について
	議題21号	令和4年6月27日 同日 原案承認	令和5年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について
	議題22号	令和4年6月27日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議題23号	令和4年6月27日 同日 原案承認	中津川市学校運営協議会の設置等に関する規則の制定について
	議題24号	令和4年6月27日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議題25号	令和4年6月27日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第8回	議第26号	令和4年7月13日 同日 原案承認	令和5年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について
第9回	議第27号	令和4年8月19日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第10回	議第28号	令和4年9月21日 同日 原案承認	中津川市スクールバス管理及び運営に関する規則の一部改正について
第11回	議第29号	令和4年10月19日 同日 原案承認	中津川市認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第30号	令和4年10月19日 同日 原案承認	中津川市保育所の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
第12回	議第31号	令和4年11月16日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について

	議第 32 号	令和 4 年 11 月 16 日 同日 原案承認	令和 4 年度中津川市選奨生の決定について
第 13 回	報第 4 号	令和 4 年 12 月 14 日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	報第 5 号	令和 4 年 12 月 14 日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会の結果報告について
	議第 33 号	令和 4 年 12 月 14 日 同日 原案承認	令和 4 年度中津川市教職員の定期人事異動方針について
第 14 回	議第 34 号	令和 4 年 12 月 14 日 同日 原案承認	中津川市立学校施設の使用に関する規則の一部改正について

令和 5 年 1 月～3 月

付 議 委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件 名
第 1 回	議第 1 号	令和 5 年 1 月 25 日 同日 原案承認	令和 5 年度中津川市教育委員会主要事業について
	議第 2 号	令和 5 年 1 月 25 日 同日 原案承認	中津川市立学校施設の使用に関する規則の一部改正について
	議第 3 号	令和 5 年 1 月 25 日 同日 原案承認	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱又は任命について
第 2 回	議第 4 号	令和 5 年 2 月 15 日 同日 原案承認	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について
	議第 5 号	令和 5 年 2 月 15 日 同日 原案承認	中津川市立高等学校管理規則の一部改正について
	議第 6 号	令和 5 年 2 月 15 日 同日 原案承認	中津川市教育委員会個人情報の保護に関する法律等施行規則の一部改正について
	議第 7 号	令和 5 年 2 月 15 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第 8 号	令和 5 年 2 月 15 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について（その 2）
第 3 回	議第 9 号	令和 5 年 3 月 2 日 同日 原案承認	令和 5 年度県費負担教職員の任免等の内申について
	議第 10 号	令和 5 年 3 月 2 日 同日 原案承認	令和 5 年度中津川市教育委員会の方針と重点について
	議第 11 号	令和 5 年 3 月 2 日 同日 原案承認	中津川市指定文化財の指定にともなう諮問について
第 4 回	議第 12 号	令和 5 年 3 月 23 日 同日 原案承認	令和 5 年度市費負担職員の任免について
	議第 13 号	令和 5 年 3 月 23 日 同日 原案承認	令和 5 年度中津川市教育委員会の方針と重点について
	議第 14 号	令和 5 年 3 月 23 日 同日 原案承認	中津川市教育振興基本計画（後期計画）の承認について
	議第 15 号	令和 5 年 3 月 23 日 同日 原案承認	中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画（第一次改定版）の承認について
	議第 16 号	令和 5 年 3 月 23 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について

(2) 移動教育委員会の開催状況

移動教育委員会を開催し、教育委員と保護者が意見を交換することで、教育現場に保護者の意見を反映させます。

令和元年度まで6地区で開催していましたが、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により中止とし、令和4年度は教育ICT環境を活用した動画配信方式での開催としました。

発達支援センターにおいては、感染対策を徹底して2回開催しました。

地区等	実施日
発達支援センター つくしんぼ	令和4年11月4日
発達支援センター どんぐり	令和4年11月10日

(3) 総合教育会議の開催状況

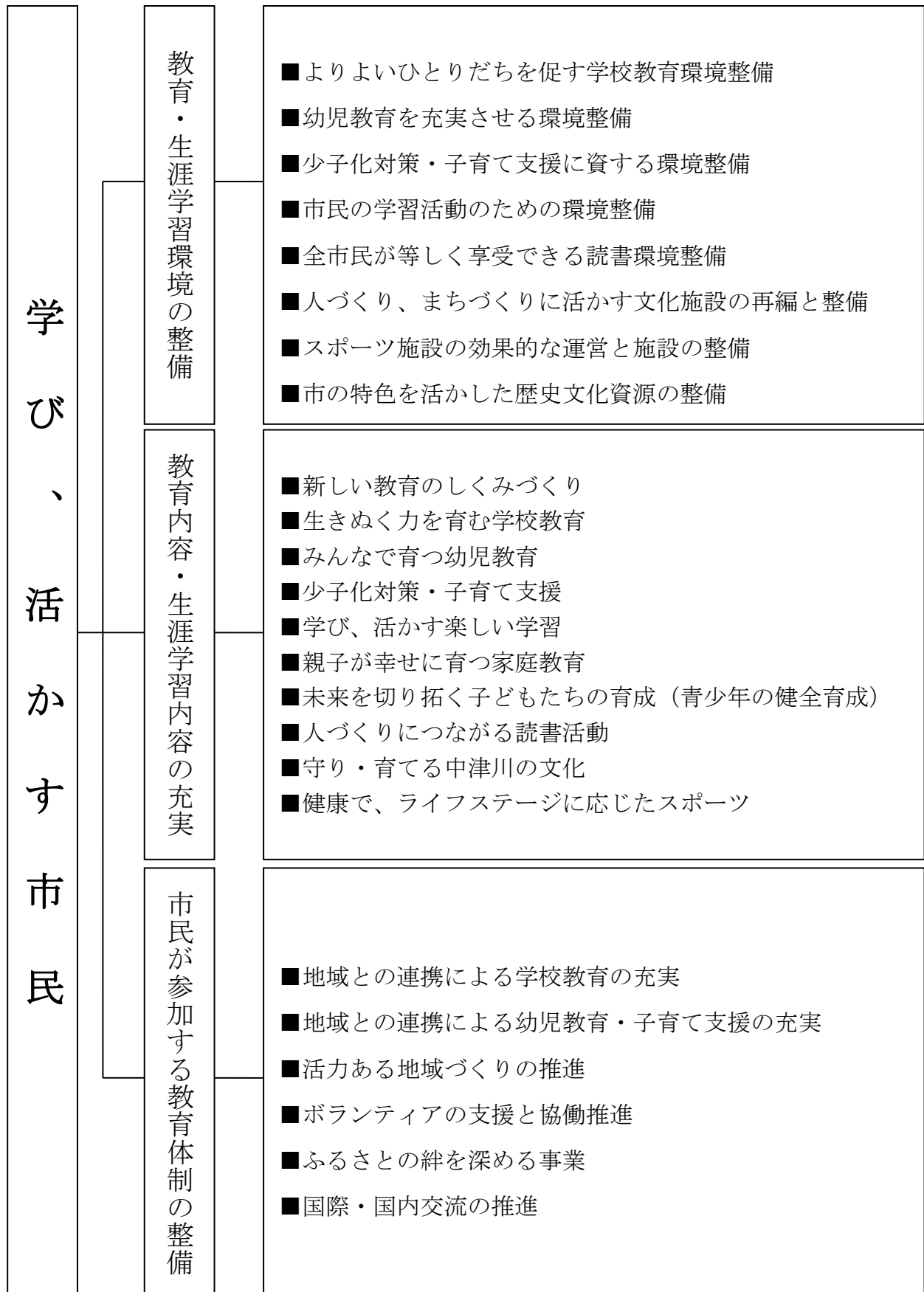
市長と、教育委員会で構成され、教育行政の大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体保護等緊急の場合に講ずべき措置について、協議・調整を行います。

実施日	報告内容
令和4年12月19日	(仮称)市民交流プラザについて
	福岡小学校建設の進捗状況について
	協議内容
	中津川市教育振興基本計画(後期計画)について

(4) その他の活動状況

市長との懇談会、教育委員会協議会、学校や園の教育長訪問、各種委員会、卒業式などに参加しました。

3 中津川市教育振興基本計画の施策体系図



事業名	岐阜サマー・サイエンス・スクール	担当課	学校教育課
------------	------------------	------------	-------

概要説明

この事業は

- ・これからの社会を担う青少年が、科学のおもしろさや不思議さ、楽しさを実感し、科学への興味関心を高めることをめざし、未来を担う人材の育成を図ること

を目的とし

- ・1995年から始まったこの事業は、中津川市名誉市民の末松安晴氏を実行委員長とし、今年度で27回目の開催となった。
- ・コロナ間の影響により集合型の開催ができず、昨年度同様、リモート開催とした。
- ・今年度の詳細は別紙「開催チラシ」のとおりである。末松安晴先生をはじめ、講師の先生方は、例年通り、科学分野の第一線で活躍している方ばかりである。
- ・事業費として、「中津川市の未来を担う人材育成事業」として、負担金150万円をいただいている。
- ・受講料として、市内受講生500円、市外受講生1000円を徴収した。

計画で進めました。

令和4年度は

・実績

【できたこと（成果）】

（1）リモート開催での効果

①受講生の大幅の増加

- ・集合型開催では定員70名で開催していたが、昨年度は139名、今年度は244名の受講生が参加した。
- ・244名中の229名がサテライト会場からの参加であり、サテライト会場の新設が有効的であった。
- ・サテライト会場は、市内12中学校とともに、恵那市4会場、瑞浪市1会場、土岐市1会場、長野県南木曾町1会場、長野県小諸市1会場と市外にも設定し、市外参加は過去最高の52名であった。

②受講生の集中度の向上

- ・集合型開催では150間の講義でやや集中力が続かない生徒も見られた。リモート開催では、前半30分、後半30分、質疑30分という時間配分にしたことにより、質問する生徒が以前よりも増えるなど、受講生の集中度を格段に高めた。
- ・受講生の満足度は「とてもよかった」「よかった」を合わせて98%の数値で、例年以上の値であった。

【できなかったこと（課題）】

(1) 質疑の時間の十分な確保

- ・受講生の中で、「少し不満足」と回答した2%は、“質問の時間がもっと欲しかった”というものであった。リモート講義で講師の先生方が熱く語る中、講義がやや延長することがあり、質疑の時間を縮める対応を取ったことが原因である。
- ・次年度は、質疑の時間30分をきちんと確保するように、ゆとりを持った時間配分、見通しのある計画や調整をさらに進めたい。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ・コロナ禍の中、集合型開催を断念し、リモート開催という形にして2年目だったが、受講生の大幅増加、受講生の集中度の向上という効果を得ることができた。受講生の満足度も98%という高い数値であり、コロナ禍の中でも新たな形での事業継続、目的達成に向かうことができた。

◆課題・問題

- ・事業全体の今後の課題は、コロナ禍が終息した際の実施形態の検討である。

◆今後どうしたいか

- ・上記の課題について、リモート開催を続けていくのか、集合型開催を復活させるのか、ハイブリット式の開催方法を新たに生み出すのか、現状を鑑みながら、検討していきたいと考える。しかし、現時点では、コロナ禍の中、新たに生み出されたリモート開催を続け、さらなる発展を目指したいと考える。そのために、教育委員会スタッフの配信技術の習得と確実な引継ぎを重要視したい。また、広報活動を活発化し、サテライト会場をさらに広げながら、科学のおもしろさや不思議さ、楽しさを実感する生徒を増やしたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・この事業を通して膨らませた興味関心や自らの夢が、受講生の進路先に大きな影響を与えていることである。2014年の受講生の追跡調査では、理系への進学が72%、科学分野に関わる職業への従事が27%であった。この事業において、科学への関心を高めた中学生が、自らの夢に向かって歩いていく姿が感じられ、中津川市の未来を担う人材育成が図られる事業であると自信をもって主張できる。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

▽理系離れと言われる昨今、理系に進む受講生の割合は、増えたのか、減ったのか。

- ・28年間この事業を継続し、親子二代での受講もあり、地域に根付いた事業と感じる。受講者の72%が理系に進むデータからも増えていると考える。

▽一般公開講座を受講するのは、どのくらいの年齢層か。その受講者は、何人くらいいるのか。

- ・一般公開により誰もが受講できるようになったが、中学生と比べるとそれ以外の受講者がまだまだ少ない。

▽就職の求人情報を見ると、理系の求人が多いと感じる。小学生のときに、こうした偉い先生方からハイレベルで自分たちに直接関係する話を聴けていたら良いと思う。小学校の高学年に受講生の年齢を広げる考えはないか。

・リモート開催前は子供たちの人材育成と共に理科教員や若い教員育成の側面もあり、その教員がハイブリット開催を通じ小学生にも理科の楽しさを伝える方法を考えたい。

・受講者の28%が研究に関わっていて、講師陣が強い思いをもって始めたことが、この継続に結びついていると感じる。

◆良いところ

- ・この事業がデータ分析から約30年間で大きな成果を出しているとあらためて感じる。
- ・夏休み明けに子供たちが受講経験を活かして活動している点が良いと感じる。
- ・興味のある講義をセレクトできることも良いし、集中して受講している様子や受講後に本当に満足した顔をしていることが大変ありがたいと感じる。

◆課題、問題点

- ・2014年以降の追跡調査も実施してほしい。
- ・宿泊して偉い先生方から直接話を聴くメリットは絶対にある。ハイブリットで開催する方法ができればやってほしい。
- ・「岐阜サマー・サイエンス・スクール」がブランド化しているものの中津川の事業であるので、どこかに「中津川」を入れることができればと思う。
- ・将来的に中津川に人材を呼び込める別の取り組みができ、最先端のことを学んで活かせる就職先があると、よりこの事業の価値が高まると考える。
- ・偉い先生方の講話が聴ける機会なのに、一般公開講座への参加に関する広報が足りないと感じる。
- ・一般公開しないサマー・サイエンス・スクールの講義も公開されるといい。最近、リモート研修が増え北海道や大阪での開催も家で育児のないときに受講できる。後日、いつでもYouTubeで研修内容を見ることができる。その日、その時間に参加できない人が見られるといいと感じる。

◆全般的な意見

- ・特になし

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 継続 </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

・コロナ禍を受けて始まったリモート開催により、新たな層の受講者を獲得することができた。しかしながら、対面でのみ得られるものもあるため、リモート・対面双方の良さを合わせた更なる進展を期待する。受講学年の幅を広げる取り組みが必要である。また、一般の方の受講が少ないため市民の参加を更に募るべきである。

事業名	幼児教育・保育施設適正配置計画事業 ～進捗状況と第一次改定版策定～	担当課	幼児教育課
------------	--------------------------------------	------------	-------

概要説明

この事業は

- ・少子化や公立施設の地域的偏在の現状から、子どもたちの育ちにとって望ましい適切な集団規模を確保すること。
- ・多様化する保護者ニーズに答えるための体制を市全体で整備すること。

を目的とし

- ①令和3年5月に策定された中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画に基づき、(一部前倒しや変更を含む)事業を実施した。
- ②適正配置計画の中で、実態に合わせ2年に1度は計画の見直しを行うこととされているため、適正配置計画第一次改定版を作成する。
- ③コロナの影響を受け加速する少子化の現状を踏まえた計画とするよう幼児教育・保育施設運営協議会、中津川市子ども・子育て会議、中津川市総合教育会議で検討を行った。
- ④パブリックコメントを実施し、広く市民の方の意見等を求め、令和5年4月に適正配置計画第一次改定版を策定する。

計画で進めました。

令和4年度は

・実績

【できたこと】

- ①山口こども園を開園した。
- ②阿木・加子母・蛭川保育園は説明会等実施し、R5.4こども園化に向けて申請その他手続きを行った。
- ③川上保育園を坂下保育園へ統合しやさかこども園とするため、説明会等実施し申請その他手続きを行った。
- ④公立幼稚園3園統合に向けた作業部会を5回開催し準備を行った。
- ⑤中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画は2年に1度計画の見直しを行うこととされており、加速する少子化に合せた第一次改定版を作成します。
- ⑥公立幼稚園・保育園・認定こども園、私立幼稚園、法人保育園・認定こども園、小規模保育事業所、各代表者計11名に幼児教育・保育施設の適正配置計画運営協議会委員を委嘱等し、5月～1月において運営協議会を5回開催し、適正配置計画第一次改定版について、意見を受け計画に反映した。子ども・子育て会議、中津川市総合教育会議でも同様に意見を受け計画に反映した。
- ⑦2月にパブリックコメントを実施の予定で、改善すべき点について第一次改定版に加筆・修正を行い、R5.4に計画の策定をします。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ・令和元年度の出生数は507人、令和2年度は404人と約100人少ない現状にも対応した第一次改定版では、市全体での人数調整をすることで、法人施設も安定した運営が可能となった。
- ・計画策定にあたって、各施設の代表者に参加いただいたことにより、公立・私立に関係なく保育の質の向上を目指していくことや、小学校への円滑な接続など具体的な目標に向けて意思統一を図ることができ、また、公私立の役割についても改めて確認することができた。

◆課題・問題

- ・統廃合等については保護者と共に地元住民への丁寧な説明が必要である。
- ・出生数の激減や保育ニーズの高まりなど、刻々と変わる現状に合わせた計画としていくことは、常に状況把握をすることやそれに合った計画の見直しが必要となる。

◆今後どうしたいか

- ・工程表に従って運用等設計・協議調整を実施し、確実に実行していけるよう事務局の体制を作る。
- ・公立園の園職員に計画の内容を理解した上で、保育の質の向上に向けた交流、研修等を実施する。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・急激に進む少子化に合わせて計画の前倒しや見直しを行い、現状に合った計画とした。
- ・単なる数合わせではなく、子どもの発達により良い幼児教育・保育を提供するための集団規模を確保し、さらに保育の質を向上させるための計画である。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

▽「望ましい適切な集団規模」とは、具体的にどう考えているのか。

- ・幼稚園では1学級20人以上で複数学級を保持すること、保育園では4、5歳児で1学級20人から30人を保持することが基準としてある。

▽阿木、加子母、蛭川保育園のこども園化に取り組んでいるが、こども園になると、保育園の長時間保育の子は7時から18時まで、幼稚園の子は8時から4時頃までとなり、保護者の間では、保育料が無料化し、払う額が同じなのに時間に差があるのはなぜか、が問題になっている。これは幼稚園、保育園それぞれの目的とする制度に違いがあり、この問題で間に挟まれた保育園の先生や保護者会役員が辛い思いをしながら進んでいっている現実がある。行政のように保護者は制度を理解できない。幼稚園と保育園の法制度上の違いをきちんと説明してほしい。やらないといけない事業であり、お願いはしたいが、保護者会は不満を抱えながらこども園化を進めている現実がある。

- ・令和5年度からこども園になる地域での説明では、腑に落ちていないことが認識できた。今後、よりきちんと説明していきたいと考える。

▽医療的ケア児や発達支援事業の説明があったが、シートに記載はあるか。

・記載はない。3園が統合時、現南幼稚園の施設に発達支援クラスを設置する。令和3年9月に医療的ケア児とその家族を支援する法律が施行され、保護者の意向に沿い受け入れ態勢を作ることができる。

◆良いところ

・発達支援センターへ行かせることも大変な現実があり、発達支援クラスの設置は非常に良いことである。一般の高校へ通う高校生にコミュニケーション障害やLDの子も多い、もう少し早い時期から専門家の支援が受けられたらかなり違ってくると考える。

・先程の適切な集団規模への回答は、非常に良いと考える。高校で長く非常勤講師をしている経験上、個人の性質にもよるが、幼稚園から中学校まで1学年が3人や4人だった学校から来る子供が不適應になることが本当に多い。ある程度の適正な人数の中で教育を受けることは非常に重要なことと考えるので進めてもらいたい。

◆課題、問題点

・大変であっても丁寧な説明をしていかなければならない。人数が増えたから質が落ちるのは残念なことである。

◆全般的な意見

・大変難しい事業で不満も出てくるだろうが、教育の質をどう上げていくのかを合わせた説明、また、説明を受けた方が腑に落ちる説明であることが一番大事と考える。神坂地域との関わりがあり統廃合の話も聞くが、保護者だけでなく地域の方が説明を受け現状を知ると「子供たちの教育にとって、現状の少ない人数よりも合併した方がいい」と考えが変わることもある。現状の共有を幅広くすることで地域や保護者の理解につながる。短期間に大幅な減への対応は大変だが、丁寧な説明をしていってもらいたいと考える。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">継続</p> </div>	<p style="font-size: 24px; margin: 0;">廃止</p>

いずれかに○をつける

【評価】

・2年毎の改定は、先を見越した上策である。親・祖父母・地域が一体となって子供のより良い育ちを導く機運を高め、習慣にしていく事が望まれる。閉園をした地域の方々には、地元の誇りを子供へ伝えられるようになってもらいたい。そのためには、生涯学習の手助けが必要である。規模適正化は、幼児期の子供たちに生きる力をつけるための適切な人数の確保であることを、引き続き前面に出して説明していくべきである。

事業名	市民大学講座開催事業	担当課	中央公民館
------------	------------	------------	-------

概要説明

この事業は

様々な分野で活躍する方を講師に迎え、市民ひとりひとりが生涯を通じて心豊かに学び、今後の生き方のヒント、気づきが得られる講座

を目的とし

今年度のメインテーマを『中津川の魅力再発見！』とし、『古今伝授 これからの中津川のために』をサブテーマに、中津川の歴史に触れ、中津川を見つめなおし、これからの中津川を考え、郷土への愛着を増幅する機会とする

計画で進めました。

令和4年度は

・実績

【できたこと】

開催時期：令和5年2月～3月

開催場所：中央公民館

受講料：200円/1講座

予算：講師謝礼 180千円

事務用消耗品費 7千円

チラシ印刷費 119千円（全戸配布）

講師及び演題：

2/11 上田 雅和（上田医院 院長） 苗木在住

「七代目団十郎 その生涯と中津川」

2/18 新田 真由子（PRアドバイザー/地域コーディネーター）加子母出身

「自分の選択を正確にする生き方～福島と岐阜に暮らして～」

3/11 近藤 信幸（中津川市郷土資料調査員）

「西南戦争に徴兵された一兵卒の従軍日記」

3/19 成瀬 洋平（イラストレーター/ライター/ライミングインストラクター）阿木出身

「ここで暮らし、描き、登る」

3/25 大須賀 元彦（中京学院大学経営学部経営学科専任講師）

「SDGsの視点から見た中津川の魅力」

【できなかったこと】

・「中津川市の魅力再発見」というテーマの奥にある、郷土愛を育む内容や今中津川市が伝えたいこと、地域の課題解決につながるような内容となっているか、また、講師選定について、じっくり検討することができなかった。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）**◆良かったこと（成果）**

- ・バラエティーに富んだ講師により、様々な視点からみた中津川の今昔を学ぶことができる講座内容となった。
- ・公民館として初めてのZOOMを使った「オンライン配信」と会場集合型を併用し、新しい生活様式に対応をすることができた。

◆課題・問題

- ・企画段階から他部署との連携を行い、内容の広がりや集客がスムーズにいく方策が必要。（ニーズの把握と反映）
- ・コロナウイルス感染症のまん延状況により実施判断に苦慮し、開催が年度末になり、延期等が困難な時期となってしまった。

◆今後どうしたいか

- ・テーマにもある「中津川を見つめなおし、これからの中津川を考え、郷土への愛着を増幅する」よう、個人の学びからそこから地域づくりや中津川市のこれからのを考えていけるような、聞いて終わりではなく、年間を通した学びの場となる講座としたい。
（回数、ファシリテーターの設置など）
- ・若い世代の参加を増やしたい。（テーマやネーミングの工夫）
- ・市民交流プラザを活用し、様々な年代が参画できるような展開をしたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・今年度で第40回を迎え、当初のような著名人による講演から中津川市にゆかりのある講師や講演内容に変容してきており、派手さはないが、その時代に合わせた市民の生涯学習、学びの場という観点で他にはない事業となっている。

評価委員会審議内容**◆事業についての質問**

▽参加者数について、開催回数の影響もあると思うが、平成24年度から減少していることを、どう捉えているか。

・平成24年度はアートピア付知や福岡文化センターでの開催もあり、その地域の方が参加しやすかった。また、講師によって受講者数が偏っていて、受講したい内容が講座にうまく反映できていなかったかもしれない。

▽目標人数は設定しているのか。年間どのくらいであったらいいという人数はあるのか。

- ・会場の規模にもよるが、毎回、一応50人から100人の定員というのはある。

▽市民に対し何に興味があって、どんな講座だったら受講してみたいかなどの調査を実施したことがあるか。

・公民館の利用者、サークル参加者や公民館講座の受講者にアンケートの協力依頼はしている。それ以外には意見を聞く機会を設定できていないので、今後の課題としたい。

▽年間を通じて一つのテーマを追求し、中央と各地区がリンクしたり、違った催しを組み合わせたりするような視点で講座を設定する考えはないのか。

・中京学院大学の犬須賀先生は、自分が話すだけでなくSDGsを勉強している学生も参加して、ワークショップ的なことをしたいと言っている。

◆良いところ

・今回の成瀬さんのように話を聴くだけでなく絵を展示したり、ワークショップなどを絡めたりして、すぐに役立つような魅力を持たせられればと感じる。例えば今非常に健康への関心が高い。

・上田先生から地域の隠れたエピソードや知られざる逸話を一般の方へ広められるのは非常に良いと感じる。今までの市民講座はただひたすら聴く感じであったが、聴いて終わるだけでなく何かとコラボレーションして開催することが良いと考える。

◆課題、問題点

・演題がマニアックな感じがして、興味を惹かれない人も多いと感じる。希望を取っていないようなので、やはりいろいろな方の意見を聞いて、どういう講座を受けたいか情報収集から始めてはどうか。関心のある人が多い内容であれば人は集まると考える。

・参加型ということで、子供が夏休みに地域の歴史のマニアックなクイズを出され、好きな子は答えていた。小学生から大人まで参加して楽しめる内容は難しいと思うが、誰でも楽しめるテーマであれば行きやすいと考える。

・計画されている講座にいかんにか人を集めるか、どう広報していくかだと思う。やはりニーズがないと人は集まらないので、集めるために興味のあることは何かを考えるよう改善してほしい。

・サマー・サイエンスもサテライト会場がとても効果的だった。この講座を受講されるのは高齢の方が多くイメージを私は持つが、そういった方へ「Zoomでできるよ」と言っても、ハードルが高いと思われる方もいるだろう。各公民館にサテライト会場を設けると、Zoomが得意でない方も近くの公民館なら参加してくれるかもしれないと思う。

・他のところでうまくいっていることを、ここでも活用してみてもできると、よりわかりやすいかなと考える。ZoomのIDは申し込まないと送られてこないで、飛び入りの参加は難しいと考える。

・今回は間に合わないが、市民企画講座でこういう先生を呼んでほしいというグループを募って、その先生を呼べば絶対に人が集まると思う。いろんな団体が、一つずつ枠をもらって企画できると良いと思う。

・先日、介護に関するセミナーを受けて、介護の前にその講座を受講していたらすごく役立ったと思った。そういう講座を受けたい方には、講師料を負担してもらえば自分が企画するという方もいると思う。

◆全般的な意見

・団十郎の講座も大変興味深く面白いと思う。史実ではないが落合宿舞台の映画があって、一緒に上映するなどエンターテインメントと史実のイベントを兼ね合わせて、講座が魅力的な形になればいいと思う。

最終評価

方向性の判断	
継続	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

・生涯学習の視点からも継続は必須となる。個人的な学びに終始せず、学んで得た知識や意欲を地域の発展に還元していく道・受け皿をつくることが課題である。また、テーマ選びなどに市民が参加できるようきめ細かい広報が必要となる。更に今後ひと・まちテラスをはじめとして開催地を広げ、リモート開催も含めた、市民が受講し易い形を模索するべきである。

事業名	読書推進事業：絆スタート事業	担当課	図書館
------------	----------------	------------	-----

概要説明

この事業は

- ・家庭での読書活動を推進するため、子どもと保護者がともに読書に親しむきっかけをつくる
- ・家庭での読書の習慣化を図る

を目的とし

①『コウノトリのおはなし会』（教室）

赤ちゃんと一緒に楽しめる「おすすめ絵本の紹介」や「読み聞かせの方法」が分かるおはなし会の開催

②『親子をつなぐブックdeスマイル』（周知活動・個別説明会）

赤ちゃんがはじめて出会う絵本のお話チラシや「図書館案内チラシ」の配付
赤ちゃん文庫の配置及び紹介

計画で進めました。

令和4年度は

・実績

【できたこと】

①コウノトリのおはなし会

実施日：毎月第2火曜日11時～

対象者：妊婦さんとそのご家族

内 容：おはなし会の開催

- ・赤ちゃんと一緒に楽しめるおすすめ本の紹介
- ・読み聞かせの方法がわかる本のおはなし会

実 績：参加者0組

：母子手帳交付時におはなし会の開催通知を配付した

②親子をつなぐブックdeスマイル

実施日：3か月健診時

対象者：赤ちゃんと保護者

内 容：チラシ配付と赤ちゃん文庫の設置と紹介

- ・赤ちゃんがはじめて出会う絵本の紹介チラシや図書館利用案内チラシの配布
- ・0～5歳におすすめの絵本20冊を赤ちゃん文庫として配置し司書による紹介

実 績：健康福祉会館会場21回/年、福岡会場6回/年

【できなかったこと】

- ①コウノトリのおはなし会
参加申し込みが無く、開催するに至らなかった
- ②親子をつなぐブックdeスマイル
新型コロナ感染拡大防止対策の中、実際に司書が健診に出向き絵本や読み聞かせのお話をする事が出来なかった

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ・実際に司書が対象者と対面することが出来ませんでした。チラシ・パンフレットなどの配付により、読書に関する情報を周知することが出来た。
- ・未就園児の子を持つ家族の来館者が増えた。（特にお父さん）

◆課題・問題

- ①コウノトリのおはなし会
 - ・母子手帳交付時におはなし会のチラシを配付しているが、図書館へ来館してもらう為の工夫が足りなかった。（PR不足、開催日時等）
- ②親子をつなぐブックdeスマイル
 - ・親子でのふれあいの時間の取り方や、読み聞かせの方法等は実際に赤ちゃんに向けて絵本を読み、直接絵本を触って、親子のふれあいや絆づくりをしていってもらいたいが、現在はチラシの配付のみであるため絵本を手にとって読んでもらえず、読み聞かせをはじめてもらえない。

◆今後どうしたいか

- ①コウノトリのおはなし会
 - ・周知活動の機会を母子手帳の交付時に限らず、妊婦教室やパパママ教室などの機会を活用して出前講座のような体制にしていく。
- ②親子をつなぐブックdeスマイル
 - ・周知活動の機会を図書館に限らず、各公民館の家庭教育学級や各幼保こども園などで開催している未就園児の集まりで事業を展開していく。
 - ・絵本を通じた親子のふれあいや絆づくりを、家に帰ってすぐにスタートしてもらう為、以前おこなっていた、赤ちゃんひとりに一冊絵本をプレゼントする「ブックスタート」を再開したい。
- ①②共通
 - ・外国人の方、障がいのある方、地域に暮らすすべての赤ちゃんと保護者を対象とした事業の展開を考えていきたい。
 - ・絵本の読み聞かせの大切さ、絵本で心ふれあい、親子の絆の大切さを伝えたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・赤ちゃんと保護者が絵本を通じて絆を深めている。
- ・他部署との連携を図り、一緒に活動している。

評価委員会審議内容**◆事業についての質問**

▽ブックスタートは、自分の子供にもやっていただいて大変ありがたかった。生まれてすぐくらいだったと思うが、この時期にやる理由があるのか。始める時期として最初のきっかけをつくっておくことが、後の読み聞かせの継続に高い効果があるのか。

・3ヵ月健診で行っている。赤ちゃんはぼんやりとものが見えている時期なので、色がしっかり分かれている本をお母さんと一緒に見てもらい、お母さんと触れ合うのが一番大きい。読んでも何を言っているのかは分からないが、目と耳の発達が大分できている時期である。

・赤ちゃんには初めてのことで、絵本をきっかけに子育ての最初の喜びをパートナーと分かち合う機会を得られるというアンケート結果も出ている。

▽健康福祉会館での開催実績が年21回とあるが「できなかったこと」に「読み聞かせ」と書いてある。何がやれたことなのか。

・21回は3ヵ月健診の回数で、本来、読み聞かせとチラシの配布を行うが、コロナ禍のためチラシの配布のみを行うことができた。

▽健康福祉会館に赤ちゃん文庫があるが、借りられるということか。

・貸出はしていない。3ヵ月健診などで見てもらうようにしている。

▽そこで見て終わりにしないで、借りたいと思った本を図書館で借りられるように紐づけされるといい。

▽障がいのある方へ本を郵送して貸し出すことはしてるのか。

・郵送で貸し出している。

▽子育て中のお母さんが借りに行く、返しに行くのは大変なので、そういったサービスがあると良い。子育てしやすいまち＝住みたいまちという風潮があるので、そういう面でもサポートしてもらえたらいいと思う。

◆良いところ

・「ブックスタート」で『いないいないばあ』をもらい、「ばあ」のところを子供と一緒に言って、かわいかったことを思い出す。みんな本をもらってすごく喜んでた。子育て中は本を買ったり借りたりしに行けない。出かける準備ができたときに寝てしまうなど大変だった。もらった本をボロボロになるまで読んですごく助かったので、本当に復活させてほしい。

◆課題、問題点

・「コウノトリのおはなし会」は実施できなかったようだが、にぎわいプラザの子育て支援センターには常連のお母さん方が結構みえるそうなので、定期的を開催してみればどうか。

・今は働いている妊婦さんも多く、健診のためにかなり休みを取ってしまうため、「コウノトリのおはなし会」に行きたくても休めないから行くことができない。そのような現実から参加者が0になっているのだと思う。健診などであればお母さんたちも聞ける時間が多分にあると思うので、そういった機会を使ってほしい。

- ・保育園の乳幼児学級などで先生がよく絵本の読み聞かせをしてくれて、みんな集まって触れ合いながら聞いていたので、図書館でも定期的にやってもらえるといいと思う。
- ・開催が午後2時だと行けないこともある。時間設定も午前10時や11時の方が行きやすかったと思うので、アンケートを取るなどして検討してほしい。
- ・市内にエプロンシアターのボランティアグループがあって、読み聞かせを組み合わせたり、絵本を題材にした活動をしているので、そういったボランティアさんに協力してもらい、利用者が一番参加しやすい時間の設定が大事だと思う。
- ・図書館に若いお父さんでお子さんを連れてくる方が増えたイメージがある。読み聞かせをしたら家よりも楽しめると思える活動して、新しい図書館へつなげてほしい。妊婦さんの日みたいな日があって、新しいところだと来てもらえるかもしれない。ニーズはあるが行けない事情を真摯に受け止めて、参加できる方が行ける会のような、出前講座のような形の方がもしかしたら妊婦さんには大事なのかなと思う。
- ・「読み聞かせは、こんなタイミングでやるといいよ」というような情報提供があると、それをきっかけにできたりすることもあると思う。

◆全般的な意見

- ・特になし

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 10px; display: inline-block;"> 継続 </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

・ひと・まちテラスとの関わりから、負担のない範囲で継続すべきである。予算の問題はあるが、以前、好評だったブックスタートを復活させるべきである。身近に本がある生活が小学生以降の読書活動に繋がるため、本を読ませようという働きかけだけでなく、家族全員が本に親しみ、家庭の中で本についての話ができる習慣づくりができるとう良いと考える。

過去に評価を受けた事業の現状（平成20年度～令和4年度）

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
1	R3	1	保育士の勤務条件の適正化・ 保育士の確保事業 【幼児教育課】	保育士の休憩時間を確保。常雇保育士等の時間外勤務の見直し。幼保施設適正配置計画の策定により保育士不足を解消した。 【評価内容】保育士確保は、勤務条件の適正化にも結び付く。私立保育園との交流・連携を深め、園の運営に活かして欲しい。	継続	前年度以上の保育士の休憩時間の確保ができた（アンケート実施）。	
2	R3	2	キャリア教育の充実事業 【阿木高等学校】	生徒の自己理解・進路意識を深めるためカウンセリング、面接・マナー指導、企業訪問等を実施した。 【評価内容】当事業は人生設計の第一歩となる。生徒の将来を重視し、一人ひとりに丁寧なカウンセリングを継続して実施して欲しい。	継続	令和4年度：379hr 卒業22人中15人就職、7人進学	
3	R3	3	国内姉妹都市交流事業 【生涯学習スポーツ課】	当市の小学6年生11名が対馬市へ訪問。対馬市の小学5、6年生20名が来訪した。小諸市・大磯町のイベントに参加し、観光産業をPRした。 【評価内容】対馬市とは蛭川だけでなく交流の輪を広げると良い。小諸市・大磯町とは交流の内容や方法を改善して継続して欲しい。	継続	新型コロナウイルス感染症のため、夏季交流（中津川市→対馬市）、冬季交流（対馬市→中津川市）共に中止とした。R4.11に蛭川小学校「学校田」の餅米を対馬市へ贈呈した。 小諸市・大磯町のイベントは新型コロナウイルス感染症のため規模縮小しての開催、または中止となったため実施せず。	
4	R3	4	鉱物博物館事業 【鉱物博物館】	自然科学に関する企画展示や体験教室を開催。学校の校外活動・学習相談や博物館友の会等のボランティア活動を支援した。 【評価内容】子供たちが鉱物を楽しめ、鉱物以外の分野ともコラボして、他の博物館を活性化するリーダーとなることを期待したい。	継続	・R4企画展は私の展示室として「大地に眠る石の華」館独自として「まちで出会える世界の石」を開催した。また、3月から次の企画展を開催予定。10月末現在、教室・WS14回335人、出前講座2回47人、また26団体769人の団体学習を行った。	
5	R2	1	スクール・サポート・スタッフ 配置事業 【学校教育課】	県のスクールサポートスタッフ配置事業により25校に45名を配置し、コロナ感染症対策の人的体制を整備した。 【評価内容】教職員の働き方改革を進める上で、本来、先生達にやってほしいことに軸足を置いてもらい、労働時間を軽減するためサポートしていくことは、大変効果的である。	継続	スクールサポートスタッフ配置事業により、26校の51名を配置。前年に続き、コロナ対策、教員の事務支援のために整備した。 コロナ禍におけるなくてはならない事業となっている本来の教師の働き方改革にシフトできると良いが、感染症が落ち着くのが待たれる状況である。	
6	R2	2	幼児教育・保育施設適正配置 計画作成事業 【幼児教育課】	園児の育ちに望ましい適切な集団規模を確保し、様々な保育ニーズに答え、安全・安心で快適な保育環境を確保する。 【評価内容】この計画を作成されたことが評価できるという意見に同意した。今まで幼保では発信できなかったもので、この計画を作成・提示して目を向けてもらうことが大事であり、非常に価値のあることである。	継続	・R3年5月に「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画」を策定。R3年度から12年度までの10年間の計画とし、公立園のこども園化、園の統廃合（20園を12園に。民営化、指定管理含む）などを基本方針とした。 ・計画を踏まえ、各地域への説明会を順次実施中（地域の区長会、保護者会、まち協等） ・R5年4月に第一次改定版を作成予定。	
7	R2	3	中津川市青少年なやみごと電話 相談室事業 【生涯学習スポーツ課】	・18歳未満の主に小学生から高校生までの青少年を対象として、経験豊かな元教職員の相談員へ様々な悩みを相談できる電話相談窓口を開設している。 【評価内容】他市ではLINEを活用して相談数が増えている。中学生以上はほとんど電話をしない現状もある。子供たちが相談しやすい環境の進化に期待したい。	継続	祝休日を除く月・水・金の15時～18時に相談員を配置して電話相談窓口を開設している。 相談員：元教職員が対応。R4.6に青少年相談についての研修会（講話）参加 市内の小学5年、中学1年に周知用の電話相談カードを配布した。 市内小中高、市内13公民館にポスターの配布と掲示を依頼した。 こどもSOSメールとの連携をしている。	
8	R2	4	前田青邨等絵画収集事業 【文化振興課】	前田青邨の偉業を顕彰し次世代に伝えるため、画伯の貴重な作品を取得し展示していく。収集基金の積立額は、R2.10月で80,031,842円。作品数は、本画28点、下図24点、スケッチ57点。 【評価内容】郷土に著名な作家がいることはすばらしい。長年に亘り積み立てをしながら作品を収集していく活動・事業も貴重である。	継続	・遠山史料館で「青邨画伯の企画展」を開催。会期：4/23～5/22、入館者：2,476人 ・前田青邨を顕彰する施設を地元を整備し、功績を後世に伝えてもらいたいと、杉山幹夫様（岐阜新聞社最高顧問）から個人で収集した前田青邨の絵画・書作品5点を市に寄贈いただいた。 ・平成8年に寄託された青邨作品1点を所有者から寄贈いただいた。 ・収集基金の積立額は、R5.1月で72,458,184円。作品数は、本画31点、下図25点、スケッチ57点。	
9	R1	1	中津川市の未来を担う人材育成 事業 【学校教育課】	「命の教育」「生徒会サミット」「岐阜サマー・サイエンス・スクール」「すご技プロジェクト」を開催し、児童生徒に広く学び、交流する機会を提供する。 【評価内容】どの事業も中津川市の特色ある教育の姿を表現できている。また、教育委員会以外の諸機関の協力を得て成り立っていて、今後も協力を得ながら継続してほしい。	継続	・「生徒会サミット」、「岐阜サマーサイエンススクール」はオンライン開催 ・「命の教育」は夏の幼保小中合同研修会は、「助産師による命の授業」及び「授業研究会・実践交流会」は実施 生徒会サミット、サマーサイエンスはコロナ禍におけるオンライン開催になり、新たな方向性が出来た。	
10	R1	2	保育士等確保対策事業 【幼児教育課】	保育ニーズが増大する中、保育士等修学支援金制度や採用試験の受験資格の緩和等を実施し、安定した幼児教育・保育の提供体制を整える。 【評価内容】支援制度は、5年勤務すれば中津川市で勤務してもらえるいい制度である。中学生から進学先をアピールしていることは計画性がある非常にいい。	継続	・R4年度保育士修学支援金新規貸付者5名 ・大学での就職説明会参加予定（2月）	
11	R1	3	苗木城跡整備事業 【文化振興課】	石垣・道・看板等の修復、史跡内の遺構調査や整備を行い、中津川市の宝として後世へ守り遺す。 【評価内容】中津川市をアピールする重要な拠点の一つ。今後も来場者の増加が期待できる。看板の設置や通路の整備を継続してほしい。	継続	・大手口道石垣修復工を行う。 面積：撤去30m ² 、積上33m ²	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
12	R1	4	子ども科学館事業 【鉱物博物館】	子供たちの科学への興味・関心を高めるための展示・教室・イベント等の充実を図る。 【評価内容】 様々な利活用促進のアピール方法がある。これらを実現するための工夫に期待する。	継続	・R4年度(10月末現在)における入館者数は、12,230人で対前年比170%。新型コロナウイルス感染症対策の休館期間がなく、中津川ロータリークラブによる無料期間（20日<休館日含む>）もあり、新型コロナウイルス流行前の平成31年度の12,177人と並ぶ来館者を迎えることができている。	
13	H30	1	学力向上支援事業 【学校教育課】	各学校の児童生徒や教職員の実態を把握し、支援・指導を行う。 【評価内容】 学校全体の落ち着きがこの事業の成果に上げられているが、卒業式を拝見してもその成果が感じられ感銘を受けた。岐阜県下で一番の手厚い人数配置がされ、子どもたちのケアができています。	継続	【内容】 ・学校と家庭の連携プログラムにより、生活習慣や学習習慣の向上は図り、早寝、早起き、テレビ、ネット等の関わりを毎年調査を行う。 ・学校規模・児童、生徒数、県費学校職員では足りない手厚い配置を実施。 ・学カアッププログラムにかかわるシート作成。 【実績】 ・幼保小連携事業実施 ・さらさ講師A人（英語担当）4人、さらさ講師Bは17人、介助員6人、介助員（旧嘱託）3人、特別支援アシスタント70人、学校司書9人、英語指導助手3人の配置 ・スクールサポートスタッフ51名の配置	
14	H30	2	公立保育所事業（田瀬保育園、下野保育園統合） 【幼児教育課】	田瀬・下野保育園を統合し、下野保育園での保育を行う。 【評価内容】 統合して活気が出て良かった等の意見がたくさんあり良い結果を得られている。	廃止	統合により適正規模を確保し、活気のある保育ができています。 下野保育園統合（H29年度）	
15	H30	3	児童発達支援・保育所等訪問支援事業 【発達支援センター】	親子通所を基本に、個別指導やグループ指導による療育指導を行う。園生活の中で困り感のある児童に対し、保護者の同意を得たうえで、集団生活に適応できるための支援を行う。 【評価内容】 園の保育士と発達相談員との連携が上手になってきた。保護者に大変良い評価をいただいている事業である。	継続	幼児検診、発達相談により通所につながり個々に合わせた支援指導を行った。 通所児童数は、つくしんぼ117人、どんぐり53人（R5.1月現在） 専門療法士による発達段階に合わせた療育指導保護者支援のための講演会、座談会及びペアレントトレーニング 発達支援関係職員の連携、共通理解を深めるための職員研修の開催 保育所等の集団での生活の課題を専門的にアドバイス	
16	H30	4	体育施設維持管理事業 ～弓道場の統廃合～ 【生涯学習スポーツ課】	市内の弓道場6施設を3施設に集約する。 【評価内容】 多くの体育施設、公民館等があり、今後も維持管理費削減のためマスタープランにより統廃合、地域移譲をすすめていかないといけない。	継続	令和元年度から市内の弓道場6施設を3施設に集約した。また、4施設（テニスコート、グラウンド、ゲートボール場）の廃止を実施した。	・弓道場（坂下、付知、福岡） ・舞台時テニスコート ・福岡西運動広場 ・加子母ふるさと第1体育広場 ・福岡曙ゲートボール場
17	H29	1	特色ある教育の推進 ～すご技中津川プロジェクト～ 【教育研修所】	行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施。 【評価内容】 子どもたちにとって良い事業であるとともに、企業側にとっても「知ってもらおう」という意味では非常に良い事業である。働き甲斐の重要性やふるさと中津川の技術力を学ぶとともに産学官が連携し、小学校からのキャリア教育が進められている。	継続	【内容】 ・行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施 【実績】 ・児童・生徒を対象に市内協力企業17社で実施（11月7日～12月13日） 市内全小学校18校の5年生で実施 市内小学校3校の6年生で実施 市内中学校5校の1年生で実施 延べ参加人数：1,050人 【担当 学校教育課】	
18	H29	2	放課後児童クラブ運営事業 【子ども家庭課】	20カ所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援と施設整備。 【評価内容】 今の時代において必要不可欠な事業である。29年度には指導員の処遇改善がされるとともに、課題であった横のつながりも代表者懇談会などで情報交換を行うなど取り組みが進んでいる。	継続	23箇所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援を実施 阿木地区にて季節学童を実施。	
19	H29	3	B & G 海洋センター運営事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ活動の拠点として活用。 財団の助成を活用した修繕の実施。 コミュニティー拠点とするための活用。 【評価内容】 地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点としてだけではなく、近隣の学校も有効に利用している。当面は継続するが、市民の理解が得られるよう運営や施設の活用面において研究や検討が必要である。	継続	地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点として、計画的な修繕に取り組んでいる。R4年度は付知B & G 海洋センターで大規模改修を実施した。	アリーナ改修工事一式 ・吊天井撤去 ・照明のLED化
20	H29	4	小中学校への配本事業 【図書館】	学校要望に沿った図書資料の提供。 【評価内容】 十数年前では考えられないような学校との連携が進み、学校と図書館との距離がぐっと縮まる取り組みである。年々利用が拡大し、子どもたちの幅広い情報収集につながっている。	継続	配本箇所は、中学校全8校、小学校全18校、幼稚園・保育園13園 ・配本冊数（貸出）は、15,298冊（R4年12月末現在）	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
21	H28	1	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	地域協議会を設置し適正化に努める。 【評価内容】 次代を担う子どもたちのよりよい学校教育の環境づくりを目指している事業であり、力を入れる必要がある。 集団の中で生きていくための社会的な力を身につけるためには、学校規模等の改善が急務である。	継続	【新ふくおか小学校】 R5年4月の小学校開校に向けて、協議・調整を継続している。 ・R3年度の統合準備委員会の協議状況 統合準備委員会1回、総務部会2回、学校運営部会1回、環境整備・PTA部会2回 ※その他、各部会の分科会や保護者向け説明会などを実施 ・R3年9月に建設工事（建築・電気・機械）を契約（R5年2月完成予定） ・R3年10月安全祈願祭、近隣住民への説明会を経て着工	
22	H28	2	美術展開催事業 【文化振興課】	郷土の偉人の名（前田青邨・熊谷守一）を冠した全国公募展をそれぞれ3年に1回開催。 中津川市民展を毎年開催。 【評価内容】 学芸員の活躍が功を奏しており、学校への訪問等は良い観点である。 市民展については、小中学生の出品も取り入れ拡大を図ると良い。	継続	・第70回中津川市民展開催 会期：11/19～11/27 場所：にぎわいプラザ5 F 観覧者：1,042名 出品作品数：213点 ・第9回前田青邨記念大賞開催 会期：9/3～9/10 場所：東美濃ふれあいセンター 観覧者：742名 出品作品数：112作品（うち64作品展示）	
23	H28	3	読書推進ボランティア養成 【図書館】	養成講座の開催。 ボランティア等の活動支援。 【評価内容】 ボランティア団体が学校や図書館（室）等で活発に活動している。 「絆プラン」や「美術展開催事業」についても連携しながら進めることができる。	継続	・図書館サポーター養成講座の開催 （図書修理、イベントのサポーター等） 【全4回 6,7,8,9月】 ・ジュニアサポーター 活動日：毎月第2土曜 登録者数21名。基本活動日以外に児童向けイベントのサポート（7,12月）	
24	H28	4	絆プラン 【教育研修所】	朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 【評価内容】 「読書による人づくり」としてH24から続けている。個人の温度差は感じるがやり続けることが大事であり、続けることによって見えてくるものがある。 読書は学習面だけでなく疑似体験ができる素晴らしいツールである。相手の立場に立って考える力を高めることにより、いじめ対策等につながる。学校での朝読書は、落ち着いた学習のスタートがされる効果や気持ちを集中させる効果などがある。 読書をする習慣をつくるのが大事である。	継続	【内容】 朝読書の推進。読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。図書貸し出し推進。東農地区学校図書館賞審査参加推進。 新型コロナウイルス感染防止対応により、通常の貸出や取組の困難さはあるが、学校規模等に応じた取組をしている。 【実績】 学校司書9名。小学校平均貸出し冊数：115.9冊、中学校平均貸出し冊数：29冊 学校図書館教育賞参加校 R4年度実績：2校（優秀賞1校、努力賞1校）	
25	H27	1	学力を高める授業づくり 【教育研修所】	学力定着状況の分析。 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【評価内容】 よりよい授業づくりのための指導のポイント5項目は、指導項目がさらに明確になり、先生の授業力アップにつながる。先生の意識改革にもつながり、この取り組みをさらに充実し継続してほしい。	継続	【内容】 授業方法の指導。研究発表会の開催 【実績】 R4年度は3校、1園で実施 阿木中、南小、坂下小、南幼稚園	
26	H27	2	一部保育園の民営化の推進 【幼児教育課】	小鳩保育園の民営化。 【評価内容】 今回初めて民営化ができるのでこれを元にしてしっかりデータを残し次につなげて市全体の保育の充実につながるよう継続してほしい。	継続	小鳩保育園の民営化については、丁寧な引継ぎ保育を行い、スムーズな移行ができたことから、評価対象事業としては廃止 通番6に統合	
27	H27	3	地域活動のキーパーソンやコーディネーター等の人材育成 【生涯学習スポーツ課】	県の人材育成事業を活用した講座の実施。 実践講座の実施。 【評価内容】 地域のコミュニティは子育てにとってもとても大切なものである。既存組織の活用や、誰に声をかけていくかが大事である。コミュニティの意識が希薄になってきており、目標、着地点を明確にして継続してほしい。	継続	生涯学習により学び得た自分の知識、技術、経験を役立てて地域における課題の解決をめざす＝地域活動のキーパーソンやコーディネーター等の人材育成を目的とした市内13公民館で地域の絆づくり講座を開催。 R4年度は72講座を開講予定。	
28	H27	4	博物館事業 【鉱物博物館】	博物館の特徴を生かした教室・講座等の開催。 利用者の学習支援。 【評価内容】 学校や事業所への出前授業、出前講座はこちらから出向くという点では、とても効果があると思う。子どもたちに興味を持たせるきっかけにもなり今後も継続してほしい。	継続	博物館5館のR4年度（10月末現在）における教室・講座等、講演会、団体学習支援の実施状況は、225件、4,078人対前年比件数は167%、人数は136%。うち出前事業は6件、152人対前年比件数は86%、人数は84%である。	
29	H26	1	学校給食施設整備計画策定事業 【施設計画推進室】	平成27年度までに学校給食施設整備計画策定委員会を開催し学校給食施設整備計画を策定する。 【評価内容】 ひとつの選択として公設民営化も視野に入れ、継続してできるだけ早い時期に計画を立てて進めてほしい。	継続	学校規模等適正化事業へ移行	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
30	H26	2	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	教員のスキルアップを図るための研修の実施。 【評価内容】 よい授業をする教員は子どもにとって魅力があり、そういう教員を見れば子どもが「教員になりたい」と思う。教員がレベルアップしないと子どもたちに反映されない。したがって教員の学ぶ場を構想することはないにほしい。 研修を充実させるためには予算が必要である。費用を抑えるのではなく、予算をもっと獲得できるように工夫しながら継続してほしい。	継続	【内容】 教員のスキルアップを図るための研修を実施 【実績】 ※事業名変更 【現在：研修所事務事業】 教育実践講座（夜学）年10回計画したが、コロナ感染症対策の影響もあり、5回の開催となった。対象者75名参加	
31	H26	3	生涯学習活動の推進 （サポーターポイント制度事業） 【生涯学習スポーツ課】	サポーター活動の推進。 ポイントの対象となる作業活動の選定・募集。 【評価内容】 ボランティアで何かやることは自己実現になるものがあり、生涯学習として大事なこと。もっと、やりがいを感じられ、たくさんの人に参加してもらえ事業になるようにPRをして広げ、ボランティア作業の内容も楽しいことややりがいのあることを増やすなど、やり方を変えて継続してほしい。	継続	サポーター活動件数を増やす取り組みとして、各地域への働きかけ、ポイントの対象となる作業活動の選定・募集を継続実施した。	
32	H26	4	読書による人づくり 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ジュニアサポーター養成講座の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 図書館まつりの開催。 「あなたへ贈る一冊」をテーマにはがきコンクールの開催。 【評価内容】 図書館ボランティアの活動が素晴らしいが、伝えていけることが肝心であるため、広く長く継続してほしい。 ソフト面は充実してきたが、ハード面が追いついていないので、将来的にはハード面の充実も視野に入れて継続してほしい。 図書館のいろんな利用方法が市民に理解されてきて「貸す」「借りる」だけでなく図書館の楽しみ方が広がってきた。今関わっていない人をどう巻き込むかが課題だが、さらに輪を広げながら取り組みを続けてほしい。	継続	「ブックスタート事業」は「絆スタート事業」と名称変更し、月1～2回、3ヶ月健診へ司書が出向き、絵本の紹介等を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、健診等の方法も変更となったため、R4年は中止となった。資料の配布のみ。 ・図書館サポーター養成講座は通番23のとおり ・中津川えほんジャンボリーは、中津川市出身の絵本作家村上康成氏による、初の児童文学「黄色い竜」についての講演会を閉館後の図書館で開催した。また、蛭川の蛭子座において、絵本作家あべ弘士氏によるワークショップや朗読会を開催した。 ・図書館まつりとはがきコンクールについては、図書館移転の関係で閉館日が確定出来ず、4月からの準備が出来なかった為、R4は実施せず。	
33	H26 （H25 実施）	1	個別学習支援事業 【学校教育課】	個別学習指導助手の配置。 【評価内容】 子どもたちの将来のためにはこの事業の人員配置は大きな意味がある。相談面と学習面の2つの支援ができる指導助手を確保することは困難な状況があるため「相談にのれる人」と「学習を教えられる人」というくりに分けて雇用する等、個別学習支援指導助手を増やし一人でも多く長期欠席している児童生徒を復帰させる取り組みを継続してほしい。	継続	【内容】 指導助手の配置 【実績】 通常学級・特別支援学級において、特別な支援が必要な児童生徒の学習・生活支援、不登校傾向児童生徒の個別支援を行うことで、児童生徒の学力向上や集団への適応に寄与している。 指導助手14名（小学校9校、中学校5校）	R2年度から会計年度任用職員（個別学習指導助手→指導助手）と変更されている。
34	H26 （H25 実施）	2	幼児教育推進事業 【幼児教育課】	幼保小連携協議会の開催。 地域教育支援委員会の開催。 アプローチ・スタートカリキュラムの実施。 リーフレット「もうすぐ1年生」の作成・活用。 【評価内容】 幼稚園、保育園、小学校と家庭が連携し学校生活を送るための必要なルールを教えることはもちろんのこと、よりよいひとりだちができる「生きぬく力」を育てることがとても重要なので継続してほしい。 幼稚園、保育園は先生と保護者のつながりが強いが、小学校は先生と保護者のつながりが弱くなっていく傾向があるので、幼稚園・保育園の保護者と小学校の先生が懇談する場を設ける等、保護者の不安を取り除くことが大事である。	継続	ジョイントカリキュラム（発達や学びをつなぐ幼保こ小のカリキュラム）を市内全幼保こ小で実施した。 幼保小連携協議会を市内全小学校区で年3回以上実施した。 地域教育支援委員会を年3回以上実施し、支援の必要な園児・児童の情報を着実に共有した。 リーフレット「もうすぐ1年生」を市内全小学校に作成・配布し、入学説明会の資料として活用した。 岐阜県幼児教育アクションプランがR4年3月に改訂されたことに伴い、幼児教育推進事業の基本方針を「つなぐ、つながる」から「つなぐ、高める、支える」とした。指導力の向上に重点を置きダイジェスト版を作成し、HPで公開して園への配布も行った。	
35	H26 （H25 実施）	3	子育てサポーター養成講座事業 【生涯学習スポーツ課】	子育てサポーターリーダー養成講座、子育てサポーター養成講座基礎編の開催。 【評価内容】 この事業は単にサポーターを育成するだけでなく、子育てに悩んでいる親が受講することにより子育ての不安、悩みを解消することができるもの。その受講生が同年代の子育て中の親へ助言をすることができるようになり、輪を広げながら親の安心感につないでいくために受講生を増やす工夫をしながら継続してほしい。	継続	事業名変更 【現在：子育てマイスター養成講座事業】 県の子育てサポーター制度の廃止に伴い、H30年度から中津川市独自事業として子育てマイスター制度に再構築して開催している。 子育てサポーター（県）195名育成※H28までの制度 子育てマイスター（市）104名育成※R4年度：9名認定 両制度受講者総数：517名	
36	H26 （H25 実施）	4	苗木城跡保存整備事業 【文化振興課】	二の丸的場跡石垣修復工事。 【評価内容】 長期間取り組んでいる事業でずいぶん整備され変わってきた。「天空の城」みたいなキャッチコピーをつくり、まず市民に関心を持ってもらいたい。市民の誇りになるよう継続して整備してほしい。	継続	通番11に同じ	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
37	H25	1	坂本地区教育施設総合整備 検討事業 【施設計画推進室】	坂本地区学校、幼稚園、保育園などの総合整備に向けて協議会を開催。 【評価内容】 地域の意見を聞いているだけでは進まない。事業の状況を考えて、教育行政の主導が大切であり、専門的な立場から方向性を示していくように実施方法の見直しと改善を行いスピードをあげて進める必要がある。 リニア駅の近くに学校があるということ是不特定多数の人が出入りすることが可能であり環境的に良く思えない。現在の場所から移転することも視野に入れ、長期的観点から総合計画や都市計画でしっかり位置づけをして取組み、スピード感を持って進めていくことが必要である。	継続	【こども園整備事業】 (幼稚園・保育園一園化) R2年4月坂本こども園開園 【小学校建設事業】【学校給食調理場建設事業】 (坂本文教施設再配置) R2年11月 まちづくり協議会教育文化部会にて基本構想案にとりかかることを説明 R3年3月 基本構想案(たたき台)をとりまとめ R3年度はR4年度に予定する旧幼稚園園舎の解体と場内整備(駐車場)、その後の活用方法について地元協議を行う。	
38	H25	2	学校施設長寿命化改修事業 【教育企画課】	第一中学校大規模改修補強工事。 加子母中学校屋内運動場大規模改修補強工事。 蛭川中学校大規模改修工事。 【評価内容】 大規模改修により学校が安全な場所になりきれいにもなったという成果が見られる。今後も現場の意見を聞いて進め、子どもたちが勉強しやすい環境づくりをしてほしい。 計画的な推進と同時に学校規模等適正化基本計画の進捗を見据えつつ、改築等の方法も模索する。	継続	H28年度を最後に老朽対策の大規模改修工事業業は凍結となっている。なお、福岡地区の小学校4校については、R5年度の統合新築に向けて計画を進めている。 R3年度は学校施設長寿命化計画に従い、施設に不具合が生じた際には、その都度、事後保全にて施設の補修を行った。	
39	H25	3	のびのび学習支援指導助手 配置事業 【学校教育課】	指導助手の配置。 指導助手を対象とした研修会の開催。 【評価内容】 二人の先生に教えてもらえることで成績が上がったと子どもたちが感じることでできおり、必要な事業であることがわかる。縮小することなく拡大していくことが中津川の将来のためになると思う。大勢の手を掛けたり環境づくりをしたら、中津川市が言っている「たくましい子」「一人立ちのできる子」が育つかという疑問も残る。別の視点でも考える必要がある。 多様なニーズに対応するため、指導助手の確保に努める。人の配置だけでなく、効果的な活用の在り方、人材確保について更なる努力を重ねていく。 事業の成果が継続されるように、雇用をしっかりと確保できる仕組みが必要である。	継続	【内容】 さらさ講師B、指導助手の配置 さらさ講師B、指導助手を対象とした研修会の開催 【実績】 指導助手 14名(小学校8校、中学校5校) さらさ講師B 17名(小学校10校、中学校6校) 通常学級において、担任(教科担任)のサポートとして授業を補助している。授業を複数の教員で行うことによって、よりわかりやすく、楽しい授業づくりを行うことができている。また、児童生徒の学習状況を的確につかむことがしやすく、支援が必要な児童生徒に対して個別に指導を行うことによって、力を伸ばすことができている。	R2年度から会計年度任用職員(のびのび学習指導助手→さらさ講師B、指導助手)となります。変更されている
40	H25	4	ふるさと中津川学習事業 【教育研修所】	郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【評価内容】 中津川市のことを勉強するためにはなくてはならない教材となっている。 中津川市のことを知ってもらうために少しずつでも校正しながらより良いものを作ってほしい。 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂は激しい社会の変化に即して実施し、事業の成果を継続させる必要がある。 文化と対応した資料の収集と効果的な提示に努めたい。	継続	【内容】 郷土学習のための資料作成し学校へ配布 【実績】 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂(すぐ技プロジェクトの紹介ページを追加) 歴史資料を授業の中で効果的に活用するための指導案の作成	
41	H25	5	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	放課後児童クラブの運営支援。 【評価内容】 共働きが増えていく状況の中、無くては困るしありがたい事業である。 ボランティア指導者をデータバンク化しておく、指導員の負担が減少すると思う。 老朽化が進んでいる施設については、改修を行うなど施設の充実を図る必要がある、拡大して欲しい事業である。 未設置校区にも需要はあると思われる。確かな需要の洗い出しを行い、どの子にも安全・安心な居場所を確保していく。 既設置地域も含めて、ニーズの変化も推測しつつ既存施設を含めた総合的な整備を検討する。校舎改修等とも関連づけていく。	廃止	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番18に記入	重複する為廃止
42	H25	6	郷土資料調査活用事業 【文化振興課】	地域の郷土資料・行政資料の調査とデジタル化。 【評価内容】 郷土の大切な資料を後世に残していく大事な事業なので、ホームページ等でアビールの仕方を工夫し、たくさんの人に知ってもらいたい。 少ない人数で作業を行っているため、ボランティアの活用を促す古文書が読める等の作業協力者を増員して作業を進めてほしい。 郷土資料の散逸を防ぐための調査の継続とデジタル化に努める。 後継者の育成、増員が必要。 資料収蔵施設の確保が必要。	継続	H24年度から実施している地域の郷土資料・行政資料の調査は、川上、付知、山口が終了し、坂下、加子母、福岡、蛭川で継続している。 H30年度より国庫補助事業で、遠山史料館に収蔵している遠山家伝来資料の調査事業を実施している。 R4年度は引き続きで古文書の調査を、新規で工芸品の調査を実施している。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
43	H25	7	子ども金メダル事業 【生涯学習スポーツ課】	文化スポーツ活動で活躍する子どもたちに「中津川子ども金メダル」を授与。 【評価内容】 選考基準が曖昧な部分があるので内容を精査する必要がある。 東京オリンピックも行われることとなり、金メダルの意味や価値等を子どもにしっかりと認識させ質を高めてほしいと思う。 選考基準を明確化する。授与の方法について検討する。 事業の周知も必要。	継続	子ども金メダルの授与式を毎年継続して実施している。市広報等を通じて、事業の周知に努めている。	
44	H25	8	こころのプロジェクト事業 【生涯学習スポーツ課】	トップアスリートやOBの方を招き「夢の教室」を市内全小学5年生対象に実施。 【評価内容】 子どもたちに夢を持たせる良い事業である。小学校5年生に固定して継続してほしい。 目的通りの成果が上がっている。中学生への拡大をどうするか試行の成果で評価をする。	継続	市内全小学校5年生を対象にJFAこころのプロジェクト夢の教室をH23年度から毎年継続して実施している。新型コロナウイルス対策で昨年度に続きオンライン授業で実施した。	
45	H25	9	読書活動推進事業 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 第1回はがきコンクールの開催。 図書館まつりの開催。 【評価内容】 ボランティアの方の活躍により読書活動が盛んになったと思う。 ボランティアの養成をどんどん行い、充実させてほしいと思う。 地域・幅広い年代の参画者を増やし更に充実させたい。 幼保小中の絆プランとつながりを作り、より効果を上げたい。	継続	通番32に記入	
46	H25	10	地域図書室充実事業 【図書館】	公民館図書室の充実。 地域事務所に図書室を設置。 【評価内容】 ボランティアの養成をどんどん行い、地域の図書室を充実させてほしいと思う。 地域図書室の充実、その特色を生かすネットワークを進めるとともに、事業の周知をすすめ図書館（室）利用を活発にする。 地域図書室の活動を充実させるために最も大切な「人」という資源について、更に工夫を加える必要がある。	継続	週2回、公民館図書室、図書コーナーへ配本 各公民館図書室まつり等イベント時の支援 月1～2回、司書による巡回、業務補助及び指導	
47	H24	1	移動教育委員会事業 【教育企画課】	地域開催7回。テーマ：①読み聞かせ、読書活動について②学校規模適正化基本計画について 発達支援センター開催2回。 【評価内容】 教育委員と話せる貴重な機会なので継続したいが発言しにくい部分があり方法を変えてほしい。 合併して10年以上経ち別の方法や活性化を求める。 校区の組み合わせ、説明、委員の発言時間等検討し自由な意見を引き出す手法を研いでいく。 テーマについては学校・園代表が議論、意見集約ができるよう早く周知したい。	継続	教育委員会が6地区に出向き「中津川の教育」を説明し、グループに別れテーマについて懇談する会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止 発達支援センターでの会は、11月に2回開催	
48	H24	2	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	パブリックコメント活動の展開。 学校規模等適正化基本計画の完成。 【評価内容】 基本計画はできたが推進事業としては途中である。地域への説明の仕方等改善の必要がある。他市と比較すると進み方が遅く説明不足を感じる。「この規模の学校が必要なんだ」という具体的な案を教育委員会がもっと強く指針を出して進めていくことを求める。	継続	通番17に記入	
49	H24	3	確かな学力推進事業 【学校教育課】	読書環境の充実。 「学力アッププログラム」の推進。 【評価内容】 中津川市全体で学力アッププログラムに取組むことはとても良いこと。学力アッププログラムは継続し、司書は増員を求める。学力アッププログラムは学校によって差があるので調整を求める。 学力アッププログラムは子どもが多い家庭、親の仕事等環境に応じた多様な対応が必要である。	継続	【内容】 「学力アッププログラム」の推進 ※事業名変更 【現在：学力向上支援事業】 R4年度も全幼稚園、保育園、小・中学校の園児・児童生徒にプログラムシートを配付し、取り組みを行った。	
50	H24	4	特別支援指導助手配置事業 【学校教育課】	特別支援指導助手の配置 【評価内容】 極めて重要な事業であり、手厚く取り組んでもらっている。指導助手の配置を希望する学校に対し、配置が100%ではないので増員を求める。	継続	【内容】 特別支援指導助手の配置 【実績】 市内小中学校13校に14名を配置。通常学級における特別に支援が必要な生徒の学習指導や生活支援に当たっている。大人数の集団の中では、力を伸ばせない児童生徒が個別の支援によって、それぞれに力を伸ばせるようになっている。	R2年度から会計年度任用職員となり「個別学習指導助手」と「特別指導助手」が一本化され「指導助手」として各校に配置されている。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
51	H24	5	子ども自立援助事業 (適応指導教室) 【教育研修所】	適応指導教室における教育相談・登校支援。 教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【評価内容】 極めて重要な教室である。指導員の確保、増員を 求める。 一人ひとりに応じ、きめ細かい指導が行われ、良 い結果に結びついているが、指導員に対しても手 厚い配慮が必要である。	継続	【内容】 ・適応指導教室における教育相談・登校支援 【実績】 ・教育相談に係る研修会の実施（年6回） ・適応指導教室相談件数558件（R3年実績） ・通室希望者が増える中（通室者24人）で、着 実に学校復帰ができた児童生徒数（復帰・回 復）も増えている。 ・教育相談ネットワーク研修会（年4回）を教 育相談コーディネーターを中心に研修を進め た。	
52	H24	6	公立保育園耐震改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	耐震化未実施の園への耐震補強・改修（蛭川・一 色・坂本保育園）。 【評価内容】 計画通り進んでいる。 建物の耐震化だけではなく、危険箇所、非構造部 材等の対策も早くできるように求める。	継続	公立保育園の耐震化については完了している。 保育園については老朽に対する大規模改修事業 の国庫補助がないため、老朽対策ができていな いことが課題 【保育施設設備繕事業】 R3年度は老朽化の著しい以下の工事を実施し た。 ・福岡保育園園舎屋根改修工事 ・付知保育園トイレ改修工事	
53	H24	7	芸能文化人づくり事業 【文化振興課】	地域伝統芸能文化活動支援。 芝居小屋等の利用・活用・保存整備。 【評価内容】 伝統を継承している団体の支援となっている。 伝統芸能継承のために活動している団体に事業の 周知を求める。 子どもの時から教える必要があるため、小学生に 呼びかけを求める。 アピールして参加者を増やすことを求める。 子どもたちが一度の経験で終わらず、保存会に定 着できるような魅力づくりと手助けが必要であ る。補助金に依存しない保存会活動の強化も課題 である。	継続	R4年度も伝統を継承している団体の活動支援を 行った。 岐阜県県文楽・能大会を中津川市で開催した。	
54	H24	8	スポーツ団体・スポーツ事業 等支援事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ関係団体への助成。 全国大会の誘致。 指導者育成のための講演会・講習会に対する助 成。 【評価内容】 スポーツを通して人とのつながりを持つ大切な 事業である。 交付金だけを頼らず、自立させるよう導くこと を求める。 企業を巻き込む等、手法を考えながら拡大してい くことを求める。	継続	スポーツ団体や大会の支援を継続して実施 H28年度からは企業の協賛金を募りながら、清 流木曾川中津川リレーマラソンが開始され、令 和2、3年度と新型コロナウイルス感染症の影 響により中止となったが、今年度は感染対策を 実施し3年ぶりに開催された R4年度からオフロードトライアスロンの「エ クステラ」が、根の上高原を会場に開催され た。	
55	H24	9	家庭教育支援事業 【生涯学習スポーツ課】	家庭教育専門講座の推進。 子育てサポーター養成講座の開講。 公民館の乳幼児学級の支援。 【評価内容】 今は核家族が増え、孤立する親を支援する必要が ある。 より多くの人に家庭教育を勉強してもらいための 手段の工夫を求める。 ITを活用し、ホームページで子育て相談等をす まめる。 事業内容を細かく分けて、一人ひとりにあった支 援を求める。 子育てサポーターは子育て世代や女性だけでな く、祖父母の年代等幅広い受講者を取り入れてい くのも重要である。	継続	家庭教育専門講座の推進として 「親子の絆づくりプログラム（愛称BP）」一 初めの子を育てる親同士の学びの講座 「ノーバディーズパーフェクトプログラム（N P）」→親同士が学びあう託児付きの講座を実 施。コロナ過で日程変更等があるにも関わらず 多くの受講者が仲間づくりや家庭教育について の学びを深めている。 子育てマイスター養成講座の開講。受講者は20 代～70代の子育て中の親から、孫育ての方まで 多岐にわたり、その中で交流も深まっている。 全13公民館の乳幼児学級を継続支援	
56	H24	10	中津川市民国際交流事業 【生涯学習スポーツ課】	中学生及び一般スタッフの海外派遣研修。 【評価内容】 参加した中学生は一段とたくましくなり、誰もが 「貴重な経験をした」と感想を残している。現在の ままで十分な体験ができていない。行き先はタイ を続けてほしい。 学校内では結果報告がなされているが、良い事業 なので市民への広報が必要である。	継続	中学生及び一般スタッフのタイ王国への海外派 遣研修を実施していたが、世界的な新型コロナ ウイルス感染症拡大のため、実施を見送った。 R4年度は事業PRのためのチラシを作成し、市内 の小学5、6年生と中学1、2年生に配布した。	
57	H23	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等 24件。 【評価内容】 審議事項はもとより、今後も報告・協議事項につ いても積極的に議論を行い施策の推進を図ってい く。	継続	定例会12回、臨時会1回、協議会12回開催	
58	H23	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意 見交換等の実施。 市長等との懇談会の実施。 【評価内容】 懇談会等の内容を周知させる方法を検討し活動実 態やその大切さを多くの方に知って頂くことが できると良い。	継続	移動教育委員会事業、学校規模等適正化事業へ 移行	
59	H23	3	遠距離通学事業 【教育企画課】	定期券支給（小学校44人中学校21人） 補助金支給（小学校35人中学校11人） 【評価内容】 学校環境の変化に合わせ適切に対応していく。	継続	定期券支給（小学校48人、中学校10人） 補助金支給（小学校25人、中学校8人）	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
60	H23	4	学校給食管理事業 【学校教育課】	学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。 【評価内容】 より安全安心な給食提供のため、調理員研修の充実を図る必要がある。	継続	【内容・実績】 学校給食の実施 栄養職員・調理員研修の実施 給食業務従事者の腸内細菌検査実施	
61	H23	5	中津川市教育史料調査事業 【教育研修所】	明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【評価内容】 学校に多くの貴重な資料が保管されており、事業のあり方、従事する方々の充実等含め発展的に進めていただきたい。	継続	【内容】 明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行 「興風学校日誌」として改訂版発行 【実績】 資料のデジタル化を継続的に実施	
62	H23	6	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度のもとで民間ノウハウを生かして運営されており良い結果がでている。経年の適切な評価を実施しながら継続を検討していく。	継続	児童館4館を指定管理制度により、学校法人恵峰学園が運営。 幼児の保護者向けセミナーなどを実施。	
63	H23	7	子育て支援事業 (地域子育て支援拠点事業) 【子ども家庭課】	利用者数（中津川9,364人、福岡3,329人、加子母2,234人、坂本7,048人） 交流の場の提供、子育て相談の実施。 各センターにおいて年齢別ひろば等を開催。 【評価内容】 福祉部門との連携強化を図りながら、相談しやすい環境づくりによりリピーターを増やす施策に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	子育て支援センター（直営2か所、運営委託5か所）を運営。未設置地域では出張ひろばを開催 坂下地域においてやさき子育て支援センターを開所。	
64	H23	8	地域療育推進事業 【幼児教育課】	発達相談・検査1,124人。 訪問相談343人。 発達障がい理解促進講演会、研修会、相談会等の開催。 【評価内容】 福祉部門との連携を図りながら、臨床心理士等の専門職の確保に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	※事業名変更 【現在：子ども相談・支援事業】 発達相談及び必要に応じた発達検査の実施 早期発見や適切な支援を行うため、幼保・小中学校からの依頼により心理士による訪問相談を実施 保育士が園を訪問し、支援の必要な幼児への関わりについて助言指導を実施	
65	H23	9	文化財保護調査活用事業 【文化振興課】	指定文化財289件の管理。 国指定苗木城整備事業については帯曲輪石垣修復整備。 【評価内容】 広域化した市の現状から担当部署の行動力と地域との連携が不可欠。県内外を問わず観光部門とも連携しながら積極的に広報する姿勢と、文化財等の歴史的重要性が周知される必要性を感じる。	継続	引き続き指定文化財289件の管理を実施 落合本陣では、H29年度より毎週日曜日、祝日及び予約のある日に、案内ボランティアによる公開を実施している。	
66	H23	10	青少年健全育成事業 【生涯学習スポーツ課】	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動の実施。 青少年悩みごと相談実施。 【評価内容】 研修の充実をはかりスキルアップしていく必要性を感じる。 青少年悩みごと相談は相談件数が少ないようなので、相談の時間帯の変更等の検討も視野に入れ更なる充実を図ってほしい。	継続	13支部3分会それぞれで青少年健全育成活動、夜間パトロール、補導活動等を実施した。 全体活動として実施した主なものは以下のとおり R4.6 少年の主張中津川市大会 R4.7 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」及び第72回「社会を明るくする運動」中津川市大会 R4.11 子育て親育ちシンポジウム(市P連と合同開催)	
67	H22	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等41件。 【評価内容】 教育委員会の権限に属する事務については適切に管理・執行することができた。 協議会において積極的に議論を行い施策の推進を図ることができた。	継続	通番53に記入	
68	H22	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換の実施。 市長との懇談会の実施。 【評価内容】 移動教育委員会は地区開催と発達支援センターの開催回数をそれぞれ1回ずつ増やし、より多くの保護者からの意見聴取に努めることができた。 学校規模等適正化については地区説明会を行い課題の検証に努めることができた。	継続	通番54に記入	
69	H22	3	小学校施設管理事業 【教育企画課】	坂本小学校特別教室増築工事。 苗木小学校身障者用施設改修工事。 坂下小学校屋内運動場便所改修工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたことと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増えており、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 R3年度は老朽化が著しい以下施設の工事を実施 ・坂本小学校外壁浮き部撤去補修工事 ・坂本小学校プール給水管漏水復旧工事	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
70	H22	4	中学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本中学校屋外便所新築工事。 苗木中学校管理棟屋上防水改修工事。 福岡中学校汚水専用ポンプ取替工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたと評価する。老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増え、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 R3年度は老朽化が著しい以下施設の工事を実施 ・第二中学校飲料水用受水槽補修工事 ・苗木中学校体育館雨漏り補修工事	
71	H22	5	スクールバス運営事業 【教育企画課】	加子母・福岡・付知地区7台スクールバス運行。 坂下・川上スクールバス運行委託。 【評価内容】 義務教育の機会均等の確保と保護者の負担軽減を図ることができたと評価する。 学校規模適正化の方向性により手段を見直すことも必要である。	継続	加子母地区2台、付知地区1台、福岡地区4台スクールバス運行 坂下（山口・川上）地区スクールバス運行委託 福岡地区のスクールバスを老朽化のため2台更新	
72	H22	6	小学校管理費 【学校教育課・教育研修所】	命の教育、ふれあい交流科学探検、文化鑑賞、通級指導教室の実施。 【評価内容】 事業目的に沿った計画・実施がされているものと評価する。 豊かな心を育むための情操教育や命の教育等の取組は今後更に重要となる。 通級指導教室のニーズも増加しており充実した運営が求められる。	継続	【内容】 命の教育、ふれあい交流科学探検、通級指導教室の実施 ※現在、いのちの教育の授業は学力向上支援事業へ 【実績】 幼稚園、保育園、小・中学校で年間複数回の命の教育の授業や活動を実施。夏に合同研修会を実施。秋に福岡小学校で実践授業を公開した。	
73	H22	7	子ども自立援助事業 【教育研修所】	適応指導教室の自立支援（相談件数1493件）。 個別指導サポーター対象校3校各1名配置。 教育相談ネットワーク会議等の開催。 【評価内容】 子どもたちの心の不安の解消や健全な成長のために様々な取組が実施できていると評価する。 多様化する不登校事情に対応すべく各施設の機能強化を図っていく必要がある。 指導者、相談員の後継者不足が懸念されるため人材確保が急務である。	継続	【内容】 不登校傾向のある児童生徒の不登校未然防止、不当校児童生徒の学校復帰を目指すため、校内支援員等の配置や、適応指導教室において教育相談員を配置し支援を行う。心理カウンセラーの配置、メンタルフレンド、個別相談アシスタントの派遣を行い、個々の状況に合わせた支援を行う。 【実績】 適応指導教室へ教育相談員の配置（かやの木教室4人、あけぼの教室3人）、個別相談アシスタント2人、心理カウンセラー1人配置、スクールカウンセラーの学校へ配置、問題を抱えた児童生徒の相談のためスクールソーシャルワーカー1人を配置	
74	H22	8	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 適正化計画のPTA・地域住民への説明。 【評価内容】 規模等適正化の中で幼保一元化や私立への移行を含めて検討していくこととなり、将来的な方向性を示すことができたことと評価する。 国の幼保一体化等の推進政策を見据え、保護者等の理解を得ながら計画的に取組んでいく必要がある。	継続	公立幼稚園4園での幼児教育実施 私立幼稚園と協力しながら、幼児教育を希望する児童を全て受け入れることができた。 R3年5月に中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画を策定し、公立3幼稚園はR6の統合に向けて作業部会を5回開催した。	
75	H22	9	保育園大規模改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	落合・小鳩保育園耐震改修。 坂下保育園給食室改修。 【評価内容】 2園舎の耐震改修を行うことができ園児の安心・安全について推進できたと評価する。 今後も施設の耐震化等は計画的な取組が必要である。	廃止	通番48に記入	
76	H22	10	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 乳幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度による施設運営については、随時その運営状況を検証・評価していく必要がある。	廃止	通番62に記入	重複する為廃止
77	H22	11	発達支援事業 【発達支援センター】	通所児262人（つくしんぼ150人、どんぐり112人） 医学療法士等による療育指導、保護者のための講演会や職員研修の実施。 【評価内容】 希望する全員の入所が可能になるよう指導員体制を拡充できたと評価する。 H21年度から総合事務所管内の5施設を「児童デイサービス事業所」として組織化（どんぐり）し、市の発達支援センターとして一体的に運営できるようになったと評価する。 個々のニーズに応えるきめ細やかな取組が求められており、各施設の機能強化と発達相談室・園・学校との連携強化を図っていく必要がある。	継続	H30通番No.3に記入	
78	H21	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、協議会12回、審議件数等36件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番53に記入	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
79	H21	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 校長会理事会との意見交換の実施。 小諸市視察の実施。 学校規模等適正化検討委員会への諮問。 【評価内容】 学校規模等適正化への取組に着手することができた。 学校規模等適正化への取組は今後より多くの意見を集約し、教育振興基本計画等により教育委員会の基本姿勢を明確に示していくことが必要である。	継続	通番54に記入	
80	H21	3	中学校教育振興事業 【教育企画課】	中学校授業のための教材備品の整備。 【評価内容】 各校の実情をヒアリング等により把握に努めるとともに、適切な予算執行ができたと評価する。 授業を直接的に支える事業として更に拡充していくことが必要である。	継続	学校からの要望について、計画的にヒアリングを実施し、把握をすることで適切な予算執行を行うことができた。	
81	H21	4	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率76%（入居60戸/全79戸） 【評価内容】 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設について整理計画を策定し、改善に向けての道筋を付けることができたと評価する。	継続	教員住宅の維持管理を継続して実施する（管理戸数58戸、入居29戸）	管理戸数のうち8戸は解体待ちの状態
82	H21	5	中学校教育充実事業 【学校教育課】	中学校理科備品及び図書整備。 中学校就学支援。 【評価内容】 理科備品については、理科教育振興事業を活用し対象校の実情に応じた有効かつ効率的な整備がされたと評価する。 図書整備は学校毎の創意工夫により効率的に整備がされたと評価する。更に運用面を含めた充実に努めていくものとする。 就学支援については地域ネットワークの活用推進を図る。	継続	【内容・実績】 学校図書室図書整備・充実 学校活動の充実と教育活動の推進	
83	H21	6	『ふるさと中津川』学習事業 【教育研修所】	社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。 【評価内容】 「ふるさと中津川」「中津川市地図」については社会事象の変化を取り込んだ適切な内容に改訂されたと評価する。 使用する写真等については今後も随時改訂を行っていく必要がある。	継続	【内容・実績】 社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）	
84	H21	7	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 【評価内容】 園児数の減少等の課題に対し、適正化検討委員会の答申をもとに今後の在り方についての計画を策定する必要がある。	継続	通番74に記入	
85	H21	8	私立幼稚園助成事業 【幼児教育課】	私立幼稚園（4園）への運営助成。 【評価内容】 年齢及び園児数に応じた助成により幼児教育の充実に寄与できたものと評価する。	継続	私立幼稚園3園への運営への助成により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。	
86	H21	9	私立幼稚園就園奨励事業 【幼児教育課】	私立幼稚園保護者への助成事業（H20年度対象者480名） 【評価内容】 保護者の所得に応じた助成により保護者の経済的負担を軽減するとともに私立幼稚園の振興にもつながったものと評価する。	廃止	保護者への財政支援により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。 令和元年度対象者 342人 令和2年度から廃止	
87	H21	10	高等学校費 【阿木高等学校】	阿木高校の運営（在校生徒数4学年209名）。 【評価内容】 昼間定時制として他にはない特色ある運営がされていると評価する。	継続	阿木高校の運営（在校生徒数：R4年5月1日現在、4学年82名）	少子化に伴い、生徒数が減少している。小・中学校から指導の割合が増えている。
88	H20	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、臨時会1回、協議会12回、審議件数等38件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	阿木高校の運営（在校生徒数：R4年5月1日現在、4学年82名）	
89	H20	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 青年会議所・広報会長会との意見交換の実施。 市内保育所・小中学校現地調査の実施。 【評価内容】 関係者からの意見を移動教育委員会により集約できた。 教育分野以外の団体との意見交換を教育懇談会の中で実施できた。 対象の輪をより一層拡大し教育施策へ反映すべく意見集約に努めて欲しい。	継続	通番54に記入	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和4年度）の内容・実績	備考
90	H20	3	奨学資金貸付事業 【教育企画課】	大学生47人高校生15人への貸与。 制度改正（専修学校を貸与対象、遠距離通学高校生のための資格要件緩和）。 【評価内容】 貸与額、予算率は県内トップレベルであり市民ニーズに応える制度であると高く評価する。 貸付対象の拡大等の制度改正を行い、利用者のための利便性を向上できたものと評価する。	継続	高校生1人、大学生27人、専修学校生9人へ新規貸与	
91	H20	4	小学校大規模改造補強事業 【教育企画課】	苗木小学校耐震化・大規模改修工事。 翌年度以降に耐震化する校舎等の計画と設計の委託。 【評価内容】 施工方法を見直し視界を妨げないかたちで校舎の耐震化を図ることができたことは高く評価できる。 校舎の耐震化を最優先させた実施計画は適切なものである。	廃止	校舎の耐震化については完了している。老朽化改善のための大規模改修工事については、H28年度を最後に凍結となっている。	
92	H20	5	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率84.8%（入居67戸/全79戸） 【評価内容】 老朽化等により利用されない教員住宅もあり非効率な面がある。 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設は取壊しの計画を策定する。	継続	通番77に記入	
93	H20	6	中学校能力開発事業 【学校教育課】	ALT等講師派遣。 サマーサイエンススクールの実施。 部活動・情操教育への助成。 【評価内容】 ALT事業は本物の英語を学ぶ機会として評価できる。 サマーサイエンススクールは高い科学の体験学習ができる貴重な機会として評価できる。 それぞれの事業の手法にはなお改善の余地はある。 重点的に取組むべき対象と方向性は妥当である。	廃止	【内容・実績】 岐阜サマーサイエンススクールはオンライン講義で実施した。 市内192名、市外52名の中学生が参加した。 ※サマーサイエンス事業への負担金として、中津川市未来を担う人材育成事業で継続中 ※ALT等講師派遣も、学力向上支援事業で継続中である。	
94	H20	7	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	年間89回の学校訪問指導、年間56回の研修会の実施。 教育実践論文集、研究紀要の発刊・配布。 【評価内容】 学校訪問と各種研修会は回数も多く精力的に実施されている。 教育実践論文等の発刊など広範囲な取組がされている。	継続	【内容】 教師の事業力向上に向けての取組 【実績】 年間61回以上の学校訪問、年間50回の研修会の実施（感染症対策のため、学校への訪問を必要、最低限とした。） 教育実践論文等、研究紀要の発行・配布	
95	H20	8	公立保育所運営事業 【幼児教育課】	公立保育園17園の運営と維持管理。 【評価内容】 運営と園児の受け入れは目標が達成されてきたものと評価できる。 少子化社会に相応した運営が必要であり、効率性、有効性において改善の余地がある。	継続	公立保育園等（認定子ども園2園含む）16園での保育実施 民間との協働のもと受入体制を整え、R4年12月現在の待機児童数は0人 R3年5月に中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画を策定し、R5年4月に第一次改定版策定予定。	
96	H20	9	法人保育所運営事業 【幼児教育課】	法人保育園6園への保育事業の委託。 【評価内容】 民間の特徴である機動力と柔軟性、効率性によりその運営も円滑に行われていると評価する。	継続	法人保育所6園、認定こども園2園、小規模保育事業所2園への保育の委託や財政的支援を実施 民間との協働のもと受入体制を整え、R4年12月現在の待機児童数は0人	
97	H20	10	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	国庫補助対象の放課後児童クラブ13箇所への事業委託。 【評価内容】 現状の放課後児童クラブのニーズへの対応は十分ではないと考えられる。 施設の確保、指導者育成の面からの支援を拡充する必要がある。	廃止	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番18に記入	重複する為廃止